



Adobe Firefly、クリエイターに有益かつ商業利用可能な

ジェネレーティブ AI を数百万人に提供

- Adobe Firefly は、最初の 1 か月で 7,000 万枚以上の画像を生成し、同社史上で最も成功したベータ版の一つに
- Adobe Firefly は、商業利用可能なプロ仕様の高品質なコンテンツを生成するアドビ独自のジェネレーティブ AI サービス
- アドビと Google は、Adobe Firefly ならびにコンテンツ認証イニシアチブ (CAI) のコンテンツクレデンシャル機能を AI サービス「Google Bard」に対応
- CAI のメンバー数が 1,000 企業・団体を突破するとともに、CAI のオープンソース技術が Adobe Firefly と Google Bard に対応することで、生成される画像の来歴の透明性を確保。新たなメンバーとしてユニバーサル ミュージック グループ (UMG)、Stability AI、Spawning.ai が参加

※当資料は、2023 年 5 月 10 日 (米国太平洋時間) に米国本社から発表された[プレスリリース](#)の抄訳です。

【2023 年 5 月 11 日】

アドビ (Nasdaq:ADBE) (本社：カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ) は本日、Adobe Firefly と Google の会話型 AI サービス「Google Bard」との新たな連携や、コンテンツ認証イニシアチブのメンバー数の拡大などについて発表しました。アドビが Adobe Firefly のベータ版を公開してから 1 か月ほどで、クリエイターはテキストベースの画像生成 (Text to Image)



やベクターアートの再配色 (Recolor Vector)、テキストエフェクトなどの機能を活用し、7,000 万枚以上の画像を生成しました。これは、Adobe Firefly がアドビ史上最も成功したベータ版となったことを意味します。アドビは、「説明責任」、「社会的責任」、「透明性」からなる AI 倫理原則に基づき、クリエイターに重きを置き、商業利用にも安全に使用できる点を両立させた、新しいジェネレーティブ AI として Adobe Firefly を開発しました。

アドビは Google との提携により、Google の実験的な会話型 AI サービスである Google Bard に Adobe Firefly を組み込みます。Adobe Express でコンテンツ制作を継続することで、より早く、より効率的なクリエイティブ体験が実現します。Adobe Firefly は今後数か月の間に、Google Bard のジェネレーティブ AI の筆頭パートナーとして、同サービスの「テキストベースの画像生成」の変換機能を強化し、機能向上を図ります。Google Bard との新たな連携により、あらゆるスキルレベルのユーザーが、自分の言葉を使用して Google Bard に自分のビジョンを伝えるだけで、Adobe Firefly によってその場で直接画像を生成できるようになります。さらに、それらの画像をそのまま Adobe Express で編集や仕上げをすることも可能になります。

アドビと Google の両社は、クリエイター中心の視点でこのパートナーシップに取り組んでいます。両社は、[コンテンツ認証イニシアチブ \(CAI\)](#) (英語) のオープンソース技術であるコンテンツクレデンシャル機能を活用することで、Google Bard が Adobe Firefly 経由で生成した画像に来歴の透明性をもたらします。これにより、クリエイターに重きを置いたジェネレーティブ AI が数百万人以上のユーザーに提供されることとなります。

アドビのデジタルメディア担当 CTO のイーライ グリーンフィールド (Ely Greenfield) は、次のように述べています。「Adobe Firefly ベータ版への反響は、多くの人々の創造意欲を掻き立てるジェネレーティブ AI のパワーと可能性、そしてクリエイターに有益かつ商業利用が可能なアプローチに対する強い需要があることを示しています。今回の Google Bard との連携は、より多くの人々が、Adobe Firefly でクリエイティブのインスピレーションを得たり、Adobe Express でより優れたコンテンツをデザインし共有するといった体験を強固なものとしします。」



Google アシスタントと Google Bard 担当バイスプレジデント兼ジェネラルマネージャーのシー シャウ (Sissie Hsiao) 氏は、次のように述べています。「ジェネレーティブ AI は世界的な注目を集め、コラボレーションと生産性の意味を再定義しました。Adobe Firefly との連携により、ユーザーがクリエイティブなアイデアを、より素早く簡単に、かつ直接 Google Bard で行えるようになることを、とてもうれしく思っています。」

Adobe Firefly は、商業利用にも安心して使用可能なプロ仕様の高品質なコンテンツを生成するアドビ独自のジェネレーティブ AI サービスで、アドビのアプリケーションや Google Bard の両方の環境において、クリエイターのワークフローに直接組み込むことができるように設計されています。Adobe Firefly の初代モデルは、Adobe Stock 画像、オープンライセンスコンテンツ、著作権が失効したパブリックドメインコンテンツでトレーニングされています。企業は、自社の既存のクリエイティブを使用して Adobe Firefly をトレーニングできるようになり、各社で使用している用語や言い回しでのコンテンツ生成を実現します。Adobe Experience Cloud に Adobe Firefly を統合することで、マーケティング担当者は Adobe Firefly を使用してコンテンツサプライチェーンの制作を加速させることができます。

アドビのエグゼクティブバイスプレジデント、ゼネラルカウンシル兼チーフトラストオフィサーであるダナ ラオ (Dana Rao) は、次のように述べています。「ジェネレーティブ AI が進化し普及が進む、この歴史的にも重要な時期において、ユーザーは自身が消費するコンテンツの背景を知る方法を必要としています。コンテンツクレデンシャル機能は、デジタルコンテンツの作成者が自分のストーリーを正当に伝えることを可能にすると同時に、コンテンツがどのように作成および修正されたかを確認するための使いやすいツールを人々に提供します。」

アドビが設立した CAI は、ユニバーサル ミュージック グループ (UMG)、Stability AI、Spawning.ai をはじめとする企業が新たに加わり、メンバー数が 1,000 企業・団体を突破するという重要なマイルストーンを迎えました。これには、テックやメディア企業、カメラメーカー、クリエイター、研究者、NGO など、多くのメンバーが参加しています。ジェネレーティブ AI の台頭に伴い、コンテンツが人間によって作成されたのか、AI によって生成されたのか、



あるいは AI を使って編集されたのかを人々に確実に伝えることも、コンテンツクレデンシャル機能の重要な役割となっています。

「このマイルストーンは、オンラインコンテンツの信頼性回復の重要性を裏付けるとともに、コンテンツ認証イニシアチブが提供するソリューションが業種や業界をまたぎ、強く支持されていることを示しています」と、ラオは述べています。

Adobe Firefly と Google Bard の連携による Adobe Express での制作体験について

Adobe Firefly と Google Bard の連携により、アドビによって倫理的に開発された画像作成、編集ツール、ならびに CAI のコンテンツクレデンシャル機能による透明性が、数百万人の Google ユーザーに提供されます。生成された画像を、Adobe Express を使用して編集し、より魅力的なコンテンツに仕上げることも可能です。その際、Adobe Express が提供する高品質なテンプレート、フォント、ストック画像、アセットからインスピレーションを得ることもできます。Adobe Express は、SNS 投稿、動画、画像、PDF、チラシ、ロゴなどを素早く、手軽に、楽しくデザインし共有できるオールインワンのコンテンツ作成アプリです。

コンテンツクレデンシャル機能とコンテンツ認証イニシアチブ(CAI)について

アドビは、誤報や偽情報に対抗することを目的とし、クリエイターが作品の帰属先を適切に表明できるよう CAI を設立しました。CAI は、コンテンツがどのように作成または変更されたかを詳細に開示するデジタル版の「成分表示ラベル」であるコンテンツクレデンシャル機能を、アプリケーション内で作成および表示を可能にする無料のオープンソースツールを開発しました。コンテンツクレデンシャル機能は、メタデータ形式で記録され、コンテンツの使用、公開、保存といったすべての過程において、コンテンツに関連付けられたまま適切な帰属表明を可能にし、消費者がデジタルコンテンツの真正性について十分な情報を得た上で判断できるよう支



援します。アドビは、Adobe Firefly で生成された画像に、AI が使用されたことを示すコンテンツクレデンシャルを自動的に添付します。

新しいジェネレーティブ AI 技術の開発企業に加え、現在の CAI メンバーには、AFP、AP 通信、BBC、Getty Images、ライカ、Microsoft、ニコン、ロイター通信、The Wall Street Journal などが含まれます。CAI は、ジェネレーティブ AI コンテンツがもたらす膨大な可能性と課題を認識し、ユーザーが消費するコンテンツに対して十分な情報を得た上で意思決定ができるように支援することが、この取り組みのユニークな役割であると理解しています。CAI への新規メンバーの加入が加速し、さまざまな業界のリーダーである企業や団体がコンテンツクレデンシャル機能の採用を進めることで、技術的なイノベーションが、倫理的な基盤の上に築かれるように引き続き取り組みを進めていきます。

■「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3 つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#) は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上のデスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。[Document Cloud](#) では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#) は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能 (AI) と機械学習のプラットフォームである [Adobe Sensei](#) を活用しています。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。



アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2023 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

###